

信州小諸 菱野温泉 常盤館

Shinshuu Komoro Hishino Onsen Tokiwakan
(長野県小諸市)



外観

3連休の中日、東京は気温 30℃以上と猛烈な暑さのようである。しかし、今回紹介する常盤館付近の気温は約 20℃。まるで天国の様なすがすがしさだ。

常盤館には、2つの風呂がある。ホテルの内湯と、ケーブルカーでアクセスする「雲の助」と呼ばれる露天風呂だ。ホテルの宿泊客だけでなく、日帰り客もまたこの両方を利用可能だ。利用時間の上限は特に設けられていない。ただし、夕方の混雑時は雲の助への入場者数を制限することもあるという。

ではまず、雲の助から紹介していこう。ケーブルカーはフロントの左奥にある。係員は配置されていないので、自分でケーブルカーの扉を開け、車内にあるスイッチを押す。そうすれば、ケーブルカーは自動で動き出す。エレベーターのような感覚で操縦できるわけだ。ケーブルカーの定員は不明だが、椅子は6つある。

ケーブルカーを降りたところが雲の助の入口だ。陶器の売り場と貴重品ロッカー（利用料は不要）があり、その奥が脱衣室だ。脱衣室には籠が置かれている他、使い捨ての櫛、髭剃りが自由に使える。

浴室には洗い場が5か所。ボディシャンプー、シャンプー、リンスの三点セットが用意されている。カランはサーモスタット混合栓だが、水流の勢いは若干弱い。

雲の助の最大の特徴は浴槽である。内湯が1つ、露天風呂が4つある。内湯は大きな石風呂で適温。太い丸太の柱と梁で組み上げられた建物は、かすかに木の香りが漂う。建物の建具類はすべて取り払われ、内湯と露天風呂が一体化している。冬期はすべての建具を取り付けるものと思われる。

外に出ると、小さい石風呂がある。定員は2人。湯温はかなりぬるめ。次に見えるのが1人用の桶風呂。こちらは逆に熱めになっている。さらに階段で下へ降りたところに大桶風呂がある。定員は4人くらいだろうか。適温だ。

これらの露天風呂からは、富士山や八ヶ岳、甲武信岳、瑞牆山、金峰山などの名峰を望むことができる。どれがどの山かわからない人でも問題ない。ちゃんと案内板が設けられている。さらに、ベンチブランコまで設置されているから、子供連れでも安心だ。ただし、この男湯の露天風呂は、少なくとも上半身がケーブルカーから丸見えである。

最後にホテルの内湯を紹介しておく。ホテルの内湯はフロントの左奥、ケーブルカー乗り場の左側にある。10か所の洗い場があり、ボディシャンプー、シャンプー、リンスの三点セットが完備。浴槽はかなり大きく、定員は20人以上であろうか。しかし、雲の助に比べると、人の入りが少ない。雲の助が魅力的過ぎるからやむを得ないかもしれない。尚、ホテルの内湯の脱衣室と雲の助の脱衣室とはつながっていないので、ホテルの内湯と雲の助の両方を利用する場合は、いったん服を身につけなければならない。

ちなみに、常盤館の湯（ホテルの内湯、雲の助共）は単純温泉（低張性中性低温泉）で、神経痛、筋肉痛、関節痛、五十肩、運動麻痺、関節のこわばり、うちみ、くじき、慢性消化器病、痔疾、冷え性、病後回復期、疲労回復、健康増進に効くという。

常盤館の露天風呂・雲の助は、作り手の遊び心が伝わってくる力作だ。だから、しっかりと楽しむのがマナーである。

- **名称**：信州小諸 菱野温泉 常盤館
- **所在地**：長野県小諸市菱平 762-2
- **電話**：0267-22-0516
- **営業時間**：宿泊客は6:30~8:30、11:00~21:00、日帰り客は11:00~16:00
- **定休日**：無休
- **入浴料**：宿泊客は無料、日帰り客は大人（中学生以上）1,000円、小人（3歳~小学生）500円
- **サウナ**：なし
- **テレビ**：なし
- **取材日**：2012年7月15日（日）
- **取材**：銭湯愛好会・東京支部